

誰もが学びやすい手厚い給付金&研修料

最大 **165万円** (年間) の給付金!

最先端の林業が学べる環境を兼ね備えた本校研修料は
年額なんと約13万円(税込)という低額設定!
どなたにも負担が少なく1年の学習に安心して取り組んでいただけます。

研修料 / 年額130,680円(税込) ※別途、教材費などの購入費200,000円程度

高知県立林業大学校では、1人あたり最大165万円(年間)の給付金を支給する支援制度を整備しており、研修生は安心して研修に専念することができます。

給付金制度には要件があります。詳細については、お問い合わせいただくか、「高知県緑の青年就業準備給付金事業について」のホームページをご覧ください。

高知県緑の青年就業準備給付金事業について

高知 緑の青年

検索

就職も全力でサポート!

就職率 **100%**

就職についても研修生一人一人の希望に合わせてきめ細かな就職支援を実施しています。また、インターンシップによる職場体験も積極的に行い、全ての卒業生が、木造建築関係の仕事に就くことができました。

主な
就職実績

伊与田建築設計事務所、HF設計、オークヴィレッジ(株)、(株)高知中央ホーム、(株)隈研吾建築都市設計事務所、(有)熊沢構造設計事務所、NPO法人サウンドウッズ、シュウハウス工業(株)、(有)艸建築工房、杣耕社、(株)トラスト建設、(株)中成建築設計事務所、濱田創業、(株)風憬社、(有)藤川工務店、(株)フタガミ、(株)細木建築研究所、(株)山本設計、(株)若竹まちづくり研究所



高知県立林業大学校

Kochi Prefectural Forestry College

Tel.0887-52-0784 Fax.0887-52-0788

<https://kochi-forestry.ac.jp>

E-mail:030208@ken.pref.kochi.lg.jp

〒782-0078 高知県香美市土佐山田町大平80



研修期間や定員、受講申請方法などを詳しく紹介しています。ぜひご覧ください。

高知県立林業大学校

検索

SNSもチェック!

研修の様子などを紹介します



高知県立林業大学校 校長

隈 研吾

高知県立林業大学校

Kochi Prefectural Forestry College

木造建築を学ぶ、プロに導く。

専攻課程

木造設計
コース





高知県立林業大学校 校長 隈 研吾
Kengo Kuma

木の時代を導く力。

林業を再生し活性化するプラットフォームで思想と技術が出会う。

私が初めて手掛けた本格的な木造建築は、「木を全面的に使って欲しい」という要望に応じて設計した高知県梼原町の「雲の上のホテル」です。最初に梼原町を訪ねたのは30年前で、以来、幾度となく高知県を訪れ、そのたびに感銘を受けました。人々の暮らしと森がこれほど深く、温かくつながっている地域は世界でも希ではないのかと。

森林が県土の84%を占め、林業の中心地とも言える高知県で学ぶということは、非常に意味のあることだと思っています。周囲の森と一体になったこの素晴らしい環境に立地する本校は、高知県が林業・木材産業をいかに重要視しているかの象徴です。私が校長就任時に掲げた「林業を再生し、活性化するプラットフォーム」というビジョンは、すでに形になりつつあります。木に関する多様な領域を合わせるプラットフォームは、世界から見ても非常に貴重な存在であり、本校から巣立った人材は、高知県のみならず、日本全国、そして世界の「木の産業」にとって、重要な人材となります。21世紀は木の世紀・木の時代が来ると、私は予測してきました。本校で学ぶ人は木の時代のリーダーになれる人だと思っています。木の時代を担っていく人材という自覚を持って、互いに切磋琢磨していただきたい。志を持った皆さん、日本の高知県の森で、共に学び、成長していきましょう。



雲の上のギャラリー（高知県梼原町）

学校概要



高知県立林業大学校とは

森林率日本一の高知県で、林業、木材産業、木造建築の各分野で基礎から専門的な技術までをしっかり学べる学校です。高知県の林業を担う素晴らしい人材を育てることを目的として、平成27年4月に高知県立林業学校として先行開校し、平成30年4月に専攻課程を加え、高知県立林業大学校として本格開校しました。

高知林大 木造設計 コースの強み

1 強み 林業の担い手と学ぶ 高い価値

植栽から間伐、製材など、林業系のカリキュラムも実習として学びながら、森の重要性を理解し、建築材料として木材を使う意義を学びます。



2 強み 木造特化型の 深い学び

単に構法だけでなく、実習・実験から木材の特徴を知る事が出来るのが本校ならではの。第一線で活躍する講師陣のもと、小規模から中大規模まで木造設計を奥深く学べます。



木造設計コース紹介

目指す人材像

森林の重要性を知る
木造建築の未来を拓く
プロフェッショナル

卒業後の活躍の場

設計事務所
工務店 など



木造建築の未来を拓くプロフェッショナルへ



入校資格

- 建築士の資格を有する者
- 高校や専門学校、大学等で建築やインテリアデザインを学んだ者 など
- 年 齢——18歳以上
- 研修期間——1年(1,200時間程度)
- 定 員——10名
- 研 修 料——年額130,680円(税込) ※別途、教科書・安全防具・作業着などの購入経費200,000円程度

専攻課程共通科目

植栽から伐採まで、森を知ることによって木造建築の意義を深める。

森林・林業経営や森林の持つ多面的機能、木材利用など幅広い知識を習得できます。「木造設計コース」の受講生にとっては、森林文化や森林の重要性、さらには植栽から伐倒などの造林作業を学び、実践することにより、建築材料として木材を使う意義、木を活かすことの重要性を学ぶことができます。

森林・林業経営概論

鳥獣被害対策

造林学・実習

労働安全衛生

森林文化・多面的機能学

救急法講習

木材利用学

特別活動

木材コーディネート

インターンシップ

地域公共政策

課題研究



木造設計コース

専門科目

林大ならではの奥深い木造建築学!

設計だけでなく、実習・実験から木材を知る、奥深い木造建築学。

木質構法概論

林業や地域社会、歴史等の様々な視点から、木造建築の意味や役割を考え、理解を深めます。具体的な構法各論、積算、模型製作を通じて木造建築を設計するための基礎知識を身に付け、高知県特有の材料や工法について学びます。



設計・製図

基本的な製図方法を習得し、さらにCAD、3D-CGを活用した設計手法を身につけます。講師の指導の下でエスキスを重ねることにより、住宅から中大規模木造までの設計手法を習得します。様々な製図、表現スキルを駆使してプレゼンテーション能力の向上を図り、第一線の建築家の創作活動から設計行為の本質を学ぶことが可能です。



- 1 基礎：遍路小屋など
- 2 小規模木造建築物：戸建て住宅
- 3 中大規模木造建築物：道の駅など多用途建築物
- 4 応用演習：家具などの即日設計や
木造建築物のリユース、リユーズなどの設計手法

環境性能・耐久性設計

建築物に求められる温熱環境（断熱性能・省エネ性能）や遮音性能などの環境性能と、木造建築において特に考慮すべき腐朽・シロアリ対策などの耐久性設計について学び、エコハウス、木橋などの事例見学も行います。



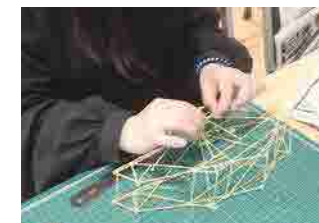
コミュニケーション学

建築をつくりあげていくプロセスにおいて求められるコミュニケーション能力、プレゼンテーションスキル等を講義と実践的なワークショップによって学びます。



木質構造設計

木造工法の種別を理解するとともに、住宅から非住宅、更には都市木造に至るまで幅広い分野での安全な木造建築物の設計に必要な構造計画、構造設計手法、構造計算等について学びます。また、耐震診断や耐力壁の考え方についても学習します。



木造防耐火設計

木造建築物における火災発生メカニズムを学び、防火・耐火に関する基本法令や安全設計の考え方、また木材を現しで表現する手法など、特に中大規模木造建築物を設計するうえで必須となる防耐火設計の知識を身につけます。

実際の授業を動画でチェック!



建築法規

建築物を正しく設計するうえで不可欠な建築基準法、また建築物を安全につくって利用するために必要とされる構造や耐震に関する法規、設備や適正な性能・品質を確保するための関連法令の概要について学びます。



木造建築施工

伝統工法や在来工法をはじめとし、集成材から最新のCLTまで木造建築物の設計や様々な施工方法・施工上の要点等について学び、適切な監理を行うことのできる知識を身につけます。また、現役で活躍されている大工からも施工技術の実践を学びます。



木材利用特論

木材の流通や規格を学び、コストコントロールや木材の効率的な利用方法を習得します。材料費、加工費、運搬費等、木材の価格決定メカニズムについて理解を深め、山側に適正な利益を還元することで持続的な林業を可能とする手法について学びます。



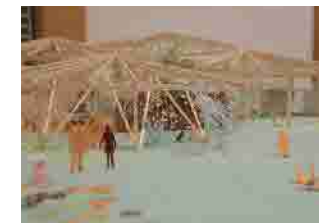
木材加工・自力制作/材料実験・測量

木材の基本的な性質性能、集成材等の加工方法を学びます。耐力壁を設計制作することで木材の性能、加工方法を学びます。ヤング係数や含水率の測定等の実験を通じて木材の持つ性質の理解を深めます。



卒業設計

自分で課題を設定し、設計コースの最終成果物として取り組みます。



特別教授に聞く！

大好きな「木造」にどっぷり浸れる時間。
業界との、多様なネットワークが広がる。

緑豊かな敷地に建つ、最新の技術を凝縮した木造校舎。ここには、「木と木造」をいつも感じていられる、「木造漬け」の充実した学びの時間があります。専攻課程の木造設計コースでは、1年間にできるだけ多くの知識を吸収できるカリキュラムを設定しています。講師陣は、木造設計の第一線で活躍する人材が全国各地から集まっています。森林、木材、木造のエキスパートに出会い、交流しながら、未来に活かせる知識を学べるのが、最大の魅力です。これからの時代に木造建築を設計するには、単に構法を理解するだけでなく、木という素材の特徴や建築に向けた使い方を理解した設計が求められます。そのためにも、研修生の皆さんには本校の恵まれた教育環境と立地を活用して、林業や木材業・建築業の関係者とネットワークをつくり、卒業後も相談しやすい仕事環境を実現してほしいと願っています。本校で得た広がりのあるネットワークは、今後の木造設計の仕事に欠かせない財産となるはずです。全国の熱意ある皆さん、これまでの技術や実績をさらに向上させるため、改めて集中した時間を持ちたいと願っているあなた、ぜひ、本校と一緒に学びましょう。



木造設計コース 卒業(1期生)
國枝 東史生
Toshio Kunieda

社会人入学後、本校との縁で(株)隈研吾建築都市設計事務所に勤務。東京都出身・在住。高知県認定木造設計士。

高知で学んだ、森林から建築までの世界。
全国で木造設計に携わる方に、推薦します。

東京で25年間、首都圏を中心とした公共・民間の建築を設計してきた私にとって、単身高知へ移り住んで学んだ1年は、かけがえない時間です。造林や林産に関する講義や現場実習、木材や製品についての講義に現場見学、そしてコースの本題である木造建築の講義や設計演習では、構造や防耐火、遮音、温熱環境計画といった内容の確認や検討方法も学びました。卒業後はインターンシップを通じて就職した隈研吾建築都市設計事務所へ。木を使って考え設計する内容が幅広く、楽しくなると実感しています。また、カリキュラムとは別に、林業に関わる地域の皆様や専門職員から直接、お話が聞けたことも、高知県ならではの魅力です。私が、設計という川下から見えるものだけでなく、自然環境や造林、林産業という川上での地域の営みから始まることに直に触れたい、そして最新の木材利活用を知りたい、改めて木を使うことを学び直したいと考えたきっかけは、数年前、高知の林業家ご家族と出会い、災害も含めて地域と共に生きていく生活信条を知ったことでした。林業を支える地域があって、私たちが木材を使えるのだと気づかれ、それを学ぶことができた場が、本校です。

講師からの
メッセージ動画も
チェック！



木造防耐火設計 特別教授
安井 昇
Noboru Yasui

校設計集団代表・NPO法人team Timberize理事長。早稲田大学理工学研究所研究員。講演やCLT普及活動も行う。本校では開校準備段階からカリキュラム設定などに協力。一級建築士、工学博士。

卒業生に聞く！

時代をリードする一流の講師陣！

特別教授

(株)内海彩・長谷川龍友
建築設計事務所 代表取締役
内海 彩

東京都市大学
名誉教授
大橋 好光

グラーツ工科大学
教授
Gerhard Schickhofer
(グルハルト・シックホッファー)

東京大学生産技術研究所
教授
腰原 幹雄

工学院大学
理事長
後藤 治

銘建工業(株)代表取締役社長・
(一社)日本CLT協会代表理事
中島 浩一郎

(株)ウッズ代表取締役・
木材コーディネーター
能口 秀一

木構造振興(株)
客員研究員
原田 浩司

芝浦工業大学
名誉教授
三井所 清典

宮内建築
代表
宮内 寿和

校設計集団一級建築士事務所
代表
安井 昇

県内講師

建築舎KIT
喜多 泰之

(株)濱口建築設計事務所
濱口 一平

(有)建築設計群無垢
東 哲也

(株)細木建築研究所
細木 淳

(株)風景社
山崎 円

(有)裨建築工房
横畠 康

(敬称略 五十音順)

校舎そのものが教材

木の魅力、木造建築の可能性を広げる先進&伝統的技術が集結。

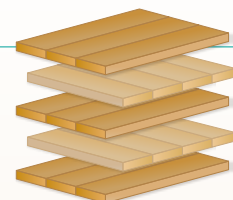
高知県が需要拡大に努める新建材「CLT」や日本伝統の貫工法などを活用した画期的な校舎は、そのものが生きた教材。理想的な環境のなかで、林業や木造建築の基礎から実践まで、幅広く専門性を磨くことができます。

校舎の
VRコンテンツ
配信中！



CLT
とは？

校舎内、CLT棟や駐輪場に使われているCLTとは、Cross Laminated Timber(クロス・ラミネイティッド・ティンバー)の略称です。ラミナ(挽き板)を直交方向に積層した大判のパネルで、強度面での優位性から大型建築や中層ビル等にも利用でき、木材需要の飛躍的な拡大が期待されています。JASでの名称は「直交集成板」。



日本伝統の
貫工法



多目的実習室

式典などを催すホールは、日本伝統の貫工法を応用したトラス構造となっています。格子状の天井は圧巻。伝統技法と最新技法を対比させながら学ぶことができます。

CLT棟

教室などが並ぶCLT棟は、RC構造の建築に劣らない解放感を叶えています。コモンスペースのテーブル等随所にCLTを活用し、魅力を存分に体感できます。

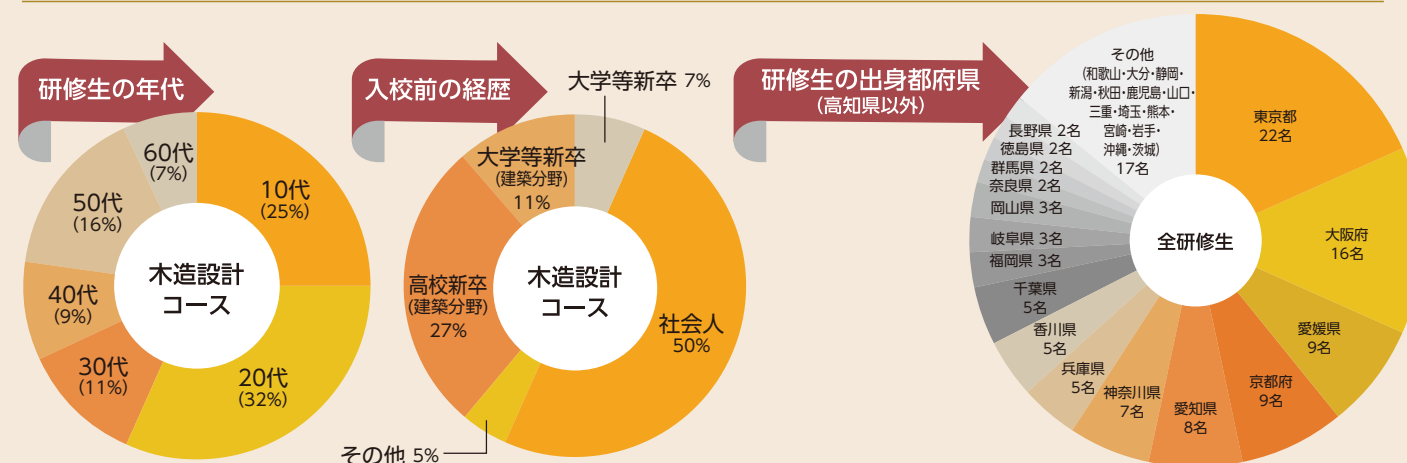


教室

木の温もりを感じながら木造技術を学べる教室。CLTを使った耐力壁や張弦梁を用いた天井なども教材となっています。美しい木目の四万十ヒノキの机でリラックスして学べます。



年代・性別・経歴・出身、多様な仲間と一緒に学べる！



※データは2025年4月時点のもの